

令和 3 年 6 月 10 日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02695

研究課題名(和文) ケイパビリティ論に基づく社会系教科教員養成・研修システムの国際共同開発と成果発信

研究課題名(英文) International collaborative development of geography/history/civics teacher education system based on the capability theory, and its results dissemination

研究代表者

志村 喬 (SHIMURA, Takashi)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：70345544

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：ケイパビリティ論に基づく社会系教科教員養成・研修システムの国際共同開発研究プロジェクトに参画した。代表的研究成果は、国際次元では国際査読誌 IRGEE (International Research in Geographical and Environmental Education) 29巻3号に、日本型研究成果論文 Kim et al. (2020) が受理・掲載されたことである。国内次元では、海外寄稿論文を含む成果書籍『社会科教育へのケイパビリティ・アプローチ』(志村編著、風間書房、2021年3月) 刊行である。これらにより国際研究貢献と同時に、国際的成果を日本の教科教育・教員養成界へ提言した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教科教育教員養成及び教員研修の改善を図るため、欧米を拠点にはじまった国際共同開発研究プロジェクトに日本から初めて本格的に参画した。研究成果では、欧米とは異なる日本型の研究結果を発信したことに大きな学術的意義がある。具体的には、日本の教師の高い教科専門性を背景とした主体的な教材作成・授業づくり(教科教員の専門職性)をヴィネット協働開発過程から見出し国際発信したことである。国際プロジェクトが、知識とベタゴギーとの関係性究明へと展開しつつある中、本知見は先駆的で重要である。研究成果は教師向けの雑誌論文・書籍でも発信したことから、学校教育現場・教員養成現場への成果還元としての社会的意義も高い。

研究成果の概要(英文)：In this research, in order to improve the education of subject teachers, we participated in the international joint development research project.

For four years, on the international level, we actively participated in the project, and the most representative achievements were the Japanese-style research achievement paper Kim et al. (2020) was accepted and published in the peer-reviewed journal IRGEE (International Research in Geographical and Environmental Education) Vol. 29, No. 3. On the domestic dimension, the most representative achievement is the publication of book "Capabilities Approach to Social Studies in Japan; Knowledge, Curriculum, Teacher education" (edited by Shimura, Kazama Shobo, March 2021), which includes overseas contributions. Through these efforts, we contributed to international projects and at the same time proposed the results and knowledge of international research in the context of Japanese subject education and teacher education.

研究分野：教科教育

キーワード：社会科教育 教員養成 社会科教育 地理教育 powerful knowledge ケイパビリティ(capability) カリキュラム 知識

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究の背景

教員養成及び教員再研修は教育の質の確保・向上における鍵であり、地球規模で教育改革が進む現在、新しい学力観に基づく授業実践ができる教員の新たな養成・再研修システムが国際的に求められている。もちろん日本も例外ではない。

このような国際共通課題に対し、世界的な教育研究拠点であるロンドン大学教育研究大学院 (Institute of Education: 以下 IoE) では、教育社会学者 (知識論) M.Young の未来のカリキュラム論と教科教育学者 (地理教育) D.Lambert のケイパビリティ・アプローチ論に基づく教科教育研究が 2010 年代に進展し (伊藤 2012, 2014a)、成果である下記書籍が国際的に注目されていた。

M.Young and D. Lambert (2014): *Knowledge and the Future school*, Bloomsbury.

本書は、構築・修正可能性を持った社会実在主義的知識である Disciplinary Knowledge (学問性を担保された知識) が事象を解釈・説明する力 (Power) が大きいとし、「学問性を担保された力のある知識 (Powerful Disciplinary Knowledge: 以下 PDK)」を学習者が生成的に学ぶことが重要であるとし、その鍵は教員の教科授業実践力にあると主張したのである。この教科教育実践力について、IoE で大学院レベル教科教員養成 (PGCE) コースを担当する C.Brooks (2016): *Teacher Subject Identity in Professional Practice*, Routledge は、教師自身が教科内容カリキュラムを自律的に創ることが重要とする D.Lambert のカリキュラム・メイキング論を土台に教員養成・研修過程の主要要素について論じ、児童・生徒の理解、教授学習方法の理解と並んで教科固有の PDK の十分な理解が必要であることを豊富な実践事例で示した。実際、PDK の欠如した教育実習生らの教科授業の問題事例が、近年多数指摘されてきた (D.Mitchell and D.Lambert (2015): *Subject Knowledge and teacher preparation in English secondary schools*, *Teacher Development*, 19(3), 365-380; 志村 2016 等)。

以上は、国際共通課題の実態及びそれに応える理論動向であるが、既にこれら実態と理論を踏まえたアクションリサーチ的臨床実践研究が、地理ケイパビリティ (Geo-Capabilities) プロジェクトとして欧米の地理教育領域で始動した (志村 2015)。同プロジェクトは、学習者理解・教授学習方法理解と並んで教科固有の PDK を確実に修得した教科教員の職能開発を図る研修材を共同開発・web 公開するとともに、それらを活用したワークショップ等の開催により、教員の教科カリキュラム創造能力・授業実践能力を高めるシステム構築を目指す国際共同開発研究である。共同研究は、米・英・フィンランドを発信地とした理論研究期 (2012-13 年) から始まり、EU コメニウス基金教育プロジェクトとしてトルコ、ギリシャ、ベルギー、ドイツ、オランダ、スウェーデンら欧州各国が公式に参加した第 2 期 (2014-2016 年) へと発展し、2016 年からは web 上での成果公開が始まった (<http://www.geocapabilities.org/>)。さらに、歴史教育といった社会系他教科領域への展開が進みつつある (2016 年日本カリキュラム学会: 柳田雅明ほか発表)。

この国際展開状況下、米国における開発研究代表者 M.Solem (アメリカ地理学会地理教育担当理事) と申請者は 2015 年、アジアにおける初めての本格的な地理ケイパビリティ・ワークショップを上越教育大学にて開催した (10 月 8 日-10 日の 3 日間)。このパイロット事業により、ケイパビリティ論に基づく研修材開発ワークショップと職能開発の社会科教育学的意義が臨床実践的に確認された。

2. 研究の目的

本研究は、教科教育教員養成及び教員研修の改善を図るため、欧米を拠点として国際的に進捗しつつあるケイパビリティ論に基づく社会系教科教員養成・研修システムの国際共同開発研究に、アジアから最初に参画することで同システムの開発・検証・改善研究に日本の教科教育界が積極的に貢献することを国際次元での目的とした。同時に、その国際研究成果を日本の教育文脈に適用することで、日本の教員養成・再研修の改善方を提案することを国内次元での目的とした。

3. 研究の方法

研究方法では、国際的に研究が先行している地理教育領域を当初の手がかりとしたが、カリキュラム上の教科・領域区分は国際的には多様であることから、社会科教育にとどまらず、教科横断的で汎用的な教員養成・研修システムの改善・再構築への展開をも射程に入れた。具体的には、始動している国際共同研究プロジェクトとの連携並びに、国内学校教員との臨床的連携であり、研究体制として国際研究推進、実践者連携研究推進をはじめとした中核研究分担組織を編成し有機的・機能的推進を図った。

年度計画としては、国際的に先行している地理ケイパビリティ・プロジェクトの理解と参画を主とした前期と、その成果を歴史・公民教育へ批判的に敷衍し、日本の社会科教育を踏まえた汎用的な教員養成・再研修の在り方を構築し国際発信する後期に大別しつつ、両研究内容を連動させ、相補相乗的に進ませた。

4. 研究成果

1) 年度別研究成果

(1) 2017(平成29年度), 国際的に先行している地理ケイパビリティ・プロジェクトへ参画する国内外での実践的研究活動と, その理論基礎研究を行った。主要な実績は次の通りである。

学校実践者と共同で日本の文脈に合わせた研修材を開発し, 社会科・地理教師を主読者とした月刊誌『地理』に「世界の地理教師たちとつくる新しい地理教材」とのシリーズ題目で7回(2017年6月号~12月号)にわたり本プロジェクト成果を掲載した。このシリーズ内容は, 本科研参加研究者が高校現場で活躍している全国の地理教師と共同研究・執筆した実践的なものであり, 国内教育現場への発信力が高く, 成果の一部は日本地理教育学会及び日本社会科教育学会のワークショップやセミナーで活用された。これら実践的活動が, 本科研課題目的に即した2017年度最大の成果であった。

理論基礎研究として, 日本地理教育学会大会及び日本社会科教育学会国際交流セミナーへのロンドン大学 IoE 教授 D.ランバート博士の招聘・講演を企画した。直前に当人の止むを得ぬ事情により来日はできなかったが, 講演原稿の代読による発表, さらに同原稿の学会誌掲載により, ほぼ目的は果たせた。

国際地理学連合(IGU)地理教育委員会(CGЕ)ポルトガル大会において本プロジェクトの経緯と成果を社会科教育という日本の文脈に位置づけて報告するなどし, 国際次元での議論を進めた。国内次元でも, 地理学研究者・教員養成研究者・教育社会学者らの研究会で講演・話題提供を行い, そこでの議論を通し研究の理論的基礎をより広げることができた。

(2) 2018(平成30)年度は, 1年目の地理研修材開発研究成果を理論的に深めながら国際発信するとともに, 社会系教育領域全体への展開可能性を探る段階であった。主要な研究実績内容は次である。

1年目の研修材開発研究を主とした成果発表は, 学会発表だけに限っても14件行った。このうち半数の7件は, アメリカ地理学会大会, 国際地理学連合大会(地理教育委員会大会), 国際教育哲学会等の国際学会発表であり, 世界の教育研究界へ成果発信することができた。

英国との共同研究としてノッティンガム大学教育学部教員養成担当者(地理)で前地理学協会(Geographical Association)会長であるメリー・ビダフ博士を招聘し, 上越教育大学(日本地理学会地理教育国際共同研究グループ例会)及び奈良教育大学(日本社会科教育学会大会)において研究講演会を開催した。「イングランドにおける教師教育改革とその地理教育学修への影響」と題された講演とその後の議論により, 日英の教育文脈の異同と本研究成果との関係について相互理解を深めることができた。

雑誌論文(7件)・図書(7件)では, 学習指導要領改訂を受けた今後の地理・社会科教育への成果の応用に関する様々な発信を行った。

地理を主としてきた研究成果を社会系教育領域へ拡大する一歩として公民領域での研究成果, 本研究の理論的基盤となる教育哲学・思想的分野での研究成果を得ることで, より広い教育研究領域で研究を定位・検討した。

(3) 2019(令和1)年度は, 2年間の社会系研修材開発研究成果を理論的に深めるとともに, 日本の学校教育状況と蓄積成果を関連づけた実践的内容も国内外へ発信した。主要研究実績内容は次である。

最も重要な点は, 日本的固有性を有した本国際研究成果を, 国際的に発信する段階に入ったことであった。IGU-CGE London 2019 及び Geography Teachers Educators conference(2020)における Kim や Shimura の発表は象徴的であり, 国際研究活動へ日本的知見を付加した。

国内文脈では, 日本の新学習指導要領において高校必修科目となった「地理総合」実践へ, 本研究がどのように寄与するかを示した。『学術の動向』掲載の井田論文, 地理空間掲載の永田論文はその代表である。

日本の教員養成・研修に関しても成果をより具体的に示すことができた。前年度招聘した研究者との共著論文(ビダフ・志村論文)と教員免許状更新講習を扱った山本・梅澤論文が代表である。また, 本科研費で招聘した英国ロンドン大学 IoE の歴史教育研究者・教員養成担当者アリソン・キットソン氏の公開講演会(10月30日・上越教育大, 11月2日・林野会館(東京))には全国から100名を超える参加者があり, 歴史教育・歴史教員養成に関して日英比較の視座から活発な議論がなされ有意であった(講演は, 二井正浩(2020)「イギリスにおける歴史教育と歴史教師 - A.キットソン氏を招いて: 2019年度国際交流セミナー報告 - 」社会科教育研究, 139:71-73として概要掲載)。

以上の成果還元を支える理論・実践研究が継続され深化された。ケイパビリティ論の根底にある教育哲学研究である広瀬の一連の教育原理研究, 井田・秋本・志村等による比較教育研究が相当する。

(4)最終年度となった2020(令和2)年度は、秋に予定した英からの研究者招聘講演会がCovid-19の世界的感染拡大により中止せざるを得なかった。しかし、研究成果とりまとめ・発信は、次のように実施することができた。

国際査読学術誌への成果論文の掲載：国際地理教育学界で最も権威のあるIRGEE(*International Research in Geographical and Environmental Education*)誌29巻3号の地理ケイパビリティ特集号に、科研メンバー共著論文「Development of the GeoCapabilities project in Japan: furthering international debate on the GeoCapabilities approach. *International Research in Geographical and Environmental Education*(日本におけるジオ・ケイパビリティズ・プロジェクトの展開：ジオ・ケイパビリティズ・アプローチの国際的議論促進へ)」(Kim, Yamamoto, Ito and Shimura:2020)が受理・掲載され、ペダゴギー側面が強い日本固有の研究成果を国際発信した。

成果をとりまとめた国際的書籍の刊行：科研参加者全員に加え2019年度招聘講演者(ロンドン大学IoE教員)の論文を所収した英文要旨付き書籍『社会科教育へのケイパビリティ・アプローチ』(志村編著：2021)を刊行し成果発信した。

国際的シンポジウムの開催：英イースト・アングリア大学教員を基調講演者、科研メンバーをシンポジストとしたシンポジウム(オンライン)を、科研代表者らをオーガナイザーとして日本地理学会2021年春季学術大会で開催した。本公開シンポジウムには130名以上の参加があり、研究成果を広く発信するとともに外部評価を受けた。

以上のような組織全体の業績の他、伊藤(2021)・広瀬(2020)等の書籍・論文でメンバー個々の成果が教育学界へ広く発信・還元され、最終年度に相応しい業績をあげることができた。

2)最終成果報告書籍『社会科教育へのケイパビリティ・アプローチ』概要

本科研の最終成果は研究期間終了時である2021年3月に刊行した『社会科教育へのケイパビリティ・アプローチ—知識、カリキュラム、教員養成—』(志村編著：2021.風間書房、A4版233ページ、ISBN978-4-7599-2369-8)に集大成されている。本書は、地理ケイパビリティ(Geo-Capabilities)プロジェクトを主導するD.ランバートの序文「日本での刊行に寄せて」、イギリスの歴史教育研究者の寄稿論文を収め、各章には英文要旨が付された国際的書籍である。ついては、この最終成果報告書籍の概要を記す。

全12章からなる本書は、本研究課題の背景・経緯・成果概要を述べた序章「国際共同研究プロジェクト「ジオ・ケイパビリティズ」の展開と日本」(志村)に続き、理論編・実践編・国際共同編の3部に大別されつつも相互に関連する次の10章諸章から構成された。

第I部理論編における第1章「社会正義に向けたジオ・ケイパビリティズ・プロジェクト第3段階」(伊藤)は、現在進行中のジオ・ケイパビリティズ・プロジェクト第3段階について、社会正義を実現するための研修材(ヴィネット)分析をもとに検討した。第2章「子どもにPDKを獲得させるために必要な専門的力量—公民教育を例に—」(中平)は、プロジェクトで主張される望ましい学校カリキュラム「未来3型カリキュラム」実現のために必要な教科専門職としての教師に必要な力量を、公民教育を事例に論じた。一方、第3章「地理教育とケイパビリティの創出—地理教育と教育学の対話の先にあるもの—」(広瀬)は、プロジェクトの基底にあるケイパビリティ概念について専攻の教育哲学の視座から考究することを通し、教科教育とプロジェクトの在り方を展望させた。

第II部実践編は、プロジェクト第2段階の中核的活動であり、とりわけ日本では学校現場教師と大学研究者との協働で成果を挙げたヴィネット(教員研修材・教員養成教材)開発を具体的に報告している。第4章「地理的な見方考え方にもとづく教材開発—グローバル化をとらえるヴィネット—」(秋本)は、先行して開発された地理教育領域でのヴィネットが、実際の教員養成課程の授業に即すならばどのようなものかを示した。一方、第5章「歴史を教わる立場から歴史を教える立場への転換—教職科目における学生作成のヴィネットを通して—」(茨木)は、歴史教育における教員養成課程で扱われてきた事柄が、ヴィネットとしてどのように定位されるか、やはり教員養成授業実践に即して示した。さらに、第6章「ヴィネットを活用した思考・判断による社会科ESD授業—地理教育と歴史教育と公民教育の連携を通して—」(永田)は、社会科としてのヴィネットとその活用を、思考・判断をふまえたESD授業づくりという社会科教育実践の視座から論じている。一方、第7章「見方・考え方を働かす力強い(Powerful)授業づくりを目指して」(金)は、教員養成課程授業で使用したヴィネットから学生らの社会的「見方・考え方」を臨床的に把握したうえで、カリキュラム内容としての「力強い知識」論とそれを活かす「力強いペダゴギー」論とを結びつけた授業づくりモデルを提案しており、国際プロジェクトの研究志向と軌を一にした成果である。

第III部国際共同編は、グローバルな共同研究成果の報告である。UCL(ロンドン大学)IoE(教育研究院)歴史教員養成担当研究者A.キットソンによる第8章「歴史を教える—イングランドにおける課題と好機、そして議論—」は、プロジェクトの一環で2019年度に招聘し日本地理学会地理教育国際共同研究グループ例会(上越教育大学)及び日本社会科教育学会国際研究セミナ

ー(東京)における講演論文である。イギリスの歴史教育における力強い知識論の受容、実際の歴史教員養成授業での知識の扱い方を、日本で初めて発信したものである。第9章「地理教育手法の国際的な伝播：イギリス発オランダ/ドイツ経由の「ミステリー」」(山本)は、イギリス地理教育界で開発された授業手法「ミステリー」が、ドイツ・オランダで普及し、日本へも影響を与えつつあることを報告した。主体的な思考を育む授業手法という側面に加え、教科の授業手法が国際ネットワークを介して伝播するという側面からも、国際共同研究の意義を確認させてくれる。第10章「地理教科書執筆に対する著者の認識に関する国際的研究」(大西)は、氏が参画した地理教科書執筆者に関する国際共同調査の概要であり、グローバルなネットワークにより結実した国際共同研究成果として象徴的である。

さらに、最終章「教科教員養成における国際的研修材開発プロジェクトの必要性」(井田)は、これら国内の理論的・実践的研究成果、国際共同研究成果を、日本の教科教育現状と総合的・俯瞰的に関連づけ、今後について展望し示唆を与えた。

3) 今後の研究展望 - 国際誌掲載論文を踏まえた国際共通研究課題と日本 -

最後に、研究成果論文(Kim et al.:2020)が掲載された『地理・環境教育国際研究』第29巻3号(2020年)の「ジオ・地理ケイパビリティズ」特集の概要をもとに、本科研成果の国際的位置と今後の国際共同研究との関係を踏まえた、今後の国際共同開発研究計画について述べる。

本プロジェクトを黎明期から牽引してきた D.ランバートと S.タニに加え、地理教育におけるケイパビリティ・アプローチについての論文で博士号を取得したイギリスの中等学校教員 R.バステインを編者とした同特集は、巻頭論文を含め6論文から構成され、執筆者の所属はイギリス、フィンランド、スウェーデン、オランダ、ベルギー、フランス、チェコ、オーストラリア、日本の9カ国であった。アジアから掲載は Kim et al. (2020) のみであり、日本がアジアにおけるプロジェクト先行地として拠点ハブと位置づけられた。

一方、所収論文からは今後の研究課題を貫く2つの要素が読み取れた。1つは力強い知識論をペダゴギー(教授学)とより関連づける必要があるという主張で、G.ブロード(スウェーデン)「ジオ・ケイパビリティズ、ダイダクティクス分析、そしてカリキュラム思考 - ダイダクティクスとカリキュラムとの間の対話を促進する」(Bladh,2020)に代表される。これは、「学習化 learnification」と称される表層的な学習のみに特化した学校教育実態への批判・コンピテンシーを越えた教育論(ピースタ,2018)を基底にもつ本プロジェクトであるが故に生じてきた課題認識であり、異なる教授・学習論であるダイダクティクスを伝統的に擁してきた中北欧のペダゴギー(教授学)と関連づけた研究が必要であるとの国際共通課題認識である。もう1つは、望ましい社会・世界構築へどのように貢献するかという価値教育的課題であり、プロジェクト第3期の速報である巻末論文 M.ビダフ(英)ほか「力強い地理的知識を教える：社会正義の問題 - ジオ・ケイパビリティズ第3期プロジェクトからの最初の知見」(Biddulph,2020)に代表されている。

同特集号掲載の Kim et al. (2020) は、日本のヴィネットづくりが授業研究といった日本の学校教師のペダゴギー的文化を背景にしていることを指摘するとともに、統合的教科である社会科の中での地理教育実践への教師の意識差(地理教育実践における価値的教育導入への意識差)を報告した。これは上述した今後の国際共通研究課題に対応するものであり、日本が今後のプロジェクト進展へ大きく貢献できること、それが国際的に期待されていることが理解された。同時にこれは、日本の地理・社会科教育研究と実践が、国際文脈の中で十分に定位されたうえで、固有性をもちつつ創造的に発展することにつながることも確認された。したがって、本科研は、そのような国際共通研究課題を図るための有意な成果をもたらしたといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Kim Hyunjin, R. Yamamoto, N. Ito, T. Shimura	4. 巻 29(3)
2. 論文標題 Development of the GeoCapabilities project in Japan: furthering international debate on the GeoCapabilities approach	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Research in Geographical and Environmental Education	6. 最初と最後の頁 244-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10382046.2020.1749768	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 広瀬悠三	4. 巻 1
2. 論文標題 最近10年間の日本における教育発展の現状	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代日本の教育改革 (論文集) 京都大学教育実践コラボレーションセンター	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 志村喬	4. 巻 40(1)
2. 論文標題 パワフル・ナレッジ (powerful Knowledge) 論の生成と展開に関する教科教育学的覚書 - 地理教育からの書誌学的アプローチ -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上越教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 217-225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 井田仁康	4. 巻 24 (11)
2. 論文標題 「地理総合」とは何か	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 10-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康・秋本弘章	4. 巻 65(1)
2. 論文標題 コンケン大学とイサーン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 38-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村喬	4. 巻 4
2. 論文標題 イギリスにおける統合型教科「社会科」創設運動の盛衰 - 1970年代から1980年代を対象に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日英教育誌	6. 最初と最後の頁 40-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ビダフ メリー・志村 喬	4. 巻 14(2)
2. 論文標題 イギリスにおける教員養成改革の教科教員養成への影響 - 地理教員養成の事例 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 404-412
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/ejgeo.14.404	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shelagh WADDINGTON, Takashi SHIMURA	4. 巻 9(3)
2. 論文標題 Worldview-An Investigation of Japanese and Irish Children's Geographical Knowledge and Understanding	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Review of International Geographical Education Online	6. 最初と最後の頁 493-522
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.33403/rigeo.629090	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 山本隆太・梅澤収	4. 巻 30
2. 論文標題 教員のためのESD実践講座 伊豆半島ジオパークの地域資源を活用した教員免許状更新講習	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 226-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永田成文	4. 巻 12(3)
2. 論文標題 地理総合必修化に伴う今後の地理教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 179-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.12.3_179	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中平一義	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 ケイパビリティ論に基づく公民教育におけるPDK - フェイクニュースに対する学生と教員の捉え方の差異から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 上越教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 375-386
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秋本弘章	4. 巻 12
2. 論文標題 国際地理オリンピックマルチメディア問題の出題内容 地理教育の内容と方法を考えるためにー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 環境共生研究	6. 最初と最後の頁 57-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康・伊藤悟	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 地理教育におけるAR(拡張現実)技術の有用性—位置情報型ARに焦点をあてて—	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 GIS - 理論と応用	6. 最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康	4. 巻 66(3)
2. 論文標題 新設科目「地理探究」と交通・通信、観光	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤直之	4. 巻 714
2. 論文標題 公的分野との連携を意図した地理授業の創造	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会科教育	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木緑・堤純・磯野巧・永田成文	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 オーストラリアにおける米産業の動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 63-77
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永田成文	4. 巻 553
2. 論文標題 現代インドを地理でどのように考えさせていくのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理月報	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村喬・山本隆太・廣瀬悠三・金ヒョン辰	4. 巻 52(6)
2. 論文標題 イギリス発「地理的見方・考え方」に気づく1枚の図 - シリーズ：世界の地理教師とつくる新しい教材 第1回 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 69,101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西宏治・山本隆太・高木優	4. 巻 62(7)
2. 論文標題 地図・GISを活用した地理的見方・考え方 - シリーズ：世界の地理教師とつくる新しい教材 第2回 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 108,113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井田仁康・伊藤直之・佐々木拓也・吉田裕幸・清水さくら	4. 巻 62(8)
2. 論文標題 地理的見方・考え方にもとづく生活文化の多様性 - シリーズ：世界の地理教師とつくる新しい教材 第3回 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 96,101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田成文・金ヒョン辰・泉貴久・福井朋美・藤澤誉文	4. 巻 62(9)
2. 論文標題 エネルギーをテーマとした地理ESD授業 - シリーズ：世界の地理教師とつくる新しい教材 第4回 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 100,105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋本弘章・中村文宣・武者賢一・西川昌宏	4. 巻 62(10)
2. 論文標題 地理的見方・考え方にもとづく防災についての考察 - シリーズ：世界の地理教師とつくる新しい教材 第5回 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 94,99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田祥彦・麻生慶彦・広瀬悠三・志村喬	4. 巻 62(11)
2. 論文標題 NIMBY施設の立地を地理的見方・考え方で検証する - シリーズ：世界の地理教師とつくる新しい教材 第6回 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 92,97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村喬・山本隆太・広瀬悠三・金ヒョン辰	4. 巻 62(12)
2. 論文標題 「事象を地図的に見出す力」に気づかせる地図のない図表 - シリーズ：世界の地理教師とつくる新しい教材 第7回(最終回) -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 96,101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村喬	4. 巻 88(2)
2. 論文標題 学校教育で「持続可能な社会づくり」を実現する教員養成のあり方 - 地理教員養成・研修をめぐる国際動向 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 166,170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 デビッド・ランバート著, 広瀬悠三・志村喬訳	4. 巻 65(3)
2. 論文標題 地理の教室では, 誰が何を考えるのか? - 力強い学問的知識とカリキュラムの未来 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 1,15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田成文	4. 巻 65(3)
2. 論文標題 「地理総合」における国際理解の授業 - 多文化共生に向けて異文化理解を深める -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 117,127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田成文	4. 巻 54(8)
2. 論文標題 価値と態度の育成を視野に入れた思考・判断・表現	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会科教育(明治図書)	6. 最初と最後の頁 30,33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村喬	4. 巻 88(2)
2. 論文標題 学校教育で「持続可能な社会づくり」を実現する教員養成のあり方 - 地理教員養成・研修をめぐる国際動向 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 166, 170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計40件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 志村喬・秋本弘章・永田成文
2. 発表標題 〔趣旨説明〕グローバルにみた地理・社会科教員養成の現状と課題 - シンポジウム「地理・社会科授業実践に必要な教師の力量とその養成 - グローバルな教員養成論から考える」の背景
3. 学会等名 日本地理学会2021年春季学術大会シンポジウム2
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金 ヒョン辰
2. 発表標題 地理教育における教員養成の国際的動向：カリキュラム・メイカーとしての教師と力強い授業づくり
3. 学会等名 日本地理学会2021年春季学術大会シンポジウム2
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本隆太
2. 発表標題 国際的な視野からみた地理学と地理教員養成の関係 ケイパビリティとコンピテンシーの対比
3. 学会等名 日本地理学会2021年春季学術大会シンポジウム2
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤直之
2. 発表標題 教科観の相対化を図る教員養成～地理で社会正義を教える場合～
3. 学会等名 日本地理学会2021年春季学術大会シンポジウム2
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 広瀬悠三
2. 発表標題 地理教育における教員養成の教育哲学的意味 ケイパビリティの創出がもたらすもの
3. 学会等名 日本地理学会2021年春季学術大会シンポジウム2
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuzo Hirose
2. 発表標題 Geographical Trust for Constructing a Sustainable Developmental Society
3. 学会等名 Association for Moral Education 46th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井田仁康
2. 発表標題 「地理総合」 小・中・高校 のつながり
3. 学会等名 日本地理学会2019年秋季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ida, Yoshiyasu
2. 発表標題 Transition of Description in Geography Textbook as far Natural Disaster, Japan
3. 学会等名 2nd International Congress on Geographical Education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ida, Yoshiyasu
2. 発表標題 The Panel, Supporting Geographical Education: Perspective from Associations
3. 学会等名 2nd International Congress on Geographical Education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志村喬
2. 発表標題 英国イングランドにおける統合的教科「社会科」創設運動の教科教育学的検討 - 1970年代から1980年代を主対象に -
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志村喬
2. 発表標題 1970-80年代イギリスにおけるラディカル地理教育論と社会科創設運動 - J.ハックル編(1983)『地理教育：省察と行動』から -
3. 学会等名 日本地理教育学会第69回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志村 喬
2. 発表標題 1970年代英国における中等地理カリキュラムGYSL開発の影響 「新しい地理教育」カリキュラム Geography for the Young School Leaver
3. 学会等名 日本地理学会2019年秋季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi SHIMURA
2. 発表標題 Powerful Knowledge/GeoCapabilities theory in Educational Research Circles in Japan
3. 学会等名 Geography Teacher Educators' (GTE) conference
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hyunjin KIM
2. 発表標題 Teachers' Conceptual Understanding of Geography and Curriculum Making : Prospective findings from the GeoCapabilities Project in Japa
3. 学会等名 IGU CGE London 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hyunjin KIM
2. 発表標題 The Geographical Enquiry as a model for Curriculum Making in the Japanese Context
3. 学会等名 GTE Conference 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本隆太
2. 発表標題 ドイツの地理教育研究の動向とコンピテンシー研究
3. 学会等名 日本地理教育学会第69回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤直之
2. 発表標題 汎用的な資質・能力の育成を担う地理授業-思考ツールの活用を通して-
3. 学会等名 日本地理学会2020年春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永田成文
2. 発表標題 地理総合必修化と今後の地理教育
3. 学会等名 第12回地理空間学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryuta YAMAMOTO, Takashi SHIMURA, Hyunjin KIM, Yuzo HIROSE
2. 発表標題 A GeoCapabilities Approach in Japan: International Collaborative Research for Pre/In-service Teacher Training Program and Expanding the Research
3. 学会等名 Annual Meeting American Association of Geographers (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳田雅明・中野和光・志村喬・本田伊克・森岡修一
2. 発表標題 カリキュラム理論におけるpowerful knowledge - その歴史的背景そして展開・拡張 -
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hyunjin KIM, Ryuta YAMAMOTO , Takashi SHIMURA
2. 発表標題 The GeoCapabilities approach for In-service Teacher Training Program in Japan: Some High School Geography Teachers ' View
3. 学会等名 IGU・CGE Quebec Regional Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ida, Yoshiyasu
2. 発表標題 Characteristics of the geography curriculum in new course study in Japan
3. 学会等名 IGU-Commission on geographical education (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井田仁康
2. 発表標題 中学校社会地理的分野における防災教育のモデル教科書
3. 学会等名 全国社会科教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ida, Yoshiyasu
2. 発表標題 Issue of multicultural education in Japan
3. 学会等名 International Symposium of Multicultural and Education Quality Assurance in the International Perspective (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井田仁康
2. 発表標題 中高接続を踏まえた中学校地理的分野、高校地理実践の在り方
3. 学会等名 人文地理学会第42回地理教育研究部会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuta Yamamoto
2. 発表標題 International comparison of the subject didactics matters for teacher education and training
3. 学会等名 Teacher Education in (Trans)Formation: Global Trends, National Processes and Local Factors (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤直之
2. 発表標題 英国地理教科書における「探究学習」はいかに作られるか
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永田成文・松村謙一
2. 発表標題 安定供給の認識形成を目指すESDとしてのエネルギー授業の開発 - 中学校社会科地理的分野を事例として -
3. 学会等名 日本社会科教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuzo Hirose
2. 発表標題 Not Cosmopolitan Education, but Educational Cosmopolitanism: From and for Geographical Children
3. 学会等名 International Network for Philosophers of Education (国際教育哲学会) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuzo Hirose
2. 発表標題 Moral Education with Religiosity? Rethinking Moral Education for a Caring Society
3. 学会等名 Association for Moral Education (国際道德教育学会) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuzo Hirose
2. 発表標題 Trusting rather than Understanding Others: Another Intercultural Cosmopolitan Education
3. 学会等名 International Conference on Multiculture and Education 2018 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuzo Hirose
2. 発表標題 Trust as a Matrix of Japanese Cultural Relationships
3. 学会等名 Second Workshop on Educational Research between TU Dortmund and Kyoto University (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金ヒョン辰・山本隆太・広瀬悠三・志村喬
2. 発表標題 ケイバビリティ論による力強い学問的知識に基づく地理カリキュラムの構築 - 地理教員養成・研修プログラムの国際的共同研究と日本での展望 -
3. 学会等名 2017年日本地理学会秋季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takashi SHIMURA
2. 発表標題 Current Geography/Social Studies Education and Educational Policies Driven by Nature/Competency Focusing in Japan: Features of and Issues with the Fundamental Structure of the Next National Curriculum
3. 学会等名 The IGU-CGE 2017 International Symposium in Lisbon (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志村喬
2. 発表標題 学校教育で「持続可能な社会づくり」を実現する教員養成のあり方」
3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「持続可能な社会づくりに向けた地理教育の充実 - SDGs実現における教育の役割 - 」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秋本弘章
2. 発表標題 Geocapabilityと新学習指導要領
3. 学会等名 日本社会科教育学会・国際交流セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 永田成文
2. 発表標題 「地理総合」における国際理解の授業 - 多文化共生の視点から異文化理解を深める高等学校地理ESD授業 -
3. 学会等名 日本地理学会地理教育専門委員会第32回地理教育公開講座
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mari Yoshinaga, Koji Ohnishi
2. 発表標題 Green and blue spaces and psycho-physiological adaptation in primary school children: The SOTOASOBI Project
3. 学会等名 The 20th IPA Triennial World Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Koji OHNISHI
2. 発表標題 Young people participation for city community renovation in Toyama city, Japan
3. 学会等名 The 20th IPA Triennial World Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志村喬・茨木智志・中平一義
2. 発表標題 社会科教育における「実践力」の捉え方を考える - 国立教育政策研究所研究報告書「21世紀型能力」を緒に -
3. 学会等名 日本社会科教育学会年第67回全国大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 志村喬編著；伊藤直之，中平一義，広瀬悠三，秋本弘章，茨木智志，永田成文，金比呂辰，A.キトツ，山本隆太，大西宏治，井田仁康	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 250
3. 書名 社会科教育へのケイパビリティ・アプローチ - 知識，カリキュラム，教員養成 -	

1. 著者名 伊藤直之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 296
3. 書名 地理科地理と市民科地理の教育課程編成論比較研究	

1. 著者名 永田成文，ほか17人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学術図書出版社	5. 総ページ数 192
3. 書名 中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育	

1. 著者名 広瀬俊雄、遠藤孝夫、池内耕作、広瀬綾子、広瀬悠三	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 284
3. 書名 シュタイナー教育100年 80カ国の人々を魅了する教育の宝庫	

1. 著者名 中平一義、茨木智志、志村喬	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 192
3. 書名 中等社会系教科教育研究	

1. 著者名 Ida, Yoshiyasu (Himiyama, Yukio, Satake, Kenji and Oki, Taikan (Eds.))	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 309-320
3. 書名 Human Geoscience. (分担: Education for a Sustainable Society)	

1. 著者名 井田仁康 (矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 27-36 (分担)
3. 書名 『地理学基礎シリーズ3 地誌学 概論[第2版]』(分担: 「現代世界のグローバル地誌」)	

1. 著者名 山内清郎・原清治・春日井敏之（編）広瀬悠三ほか（著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 247
3. 書名 『教育原論』（担当箇所「世界市民的孩子への眼差し ルソーからカントへ」）	

1. 著者名 広瀬俊雄（編）広瀬悠三ほか（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 350
3. 書名 『シュタイナー教育100年：88カ国の人びとを魅了する教育の宝庫』（担当箇所「シュタイナー学校の地理的教育：宇宙の現実の襲へと踏み入る世界市民の形成」）	

1. 著者名 中平一義・茨木智志・志村喬ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 184
3. 書名 初等社会科教育研究	

1. 著者名 碓井照子（編）・井田仁康・秋本弘章・志村喬ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 200
3. 書名 「地理総合」で始まる地理教育 持続可能な社会づくりを目指してー	

1. 著者名 井田仁康・秋本弘章・山本隆太ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 142
3. 書名 地理オリンピックへの招待	

1. 著者名 長谷川直子・井田仁康ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 176
3. 書名 今こそ学ぼう 地理の基本	

1. 著者名 原田智仁（編）・永田成文	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 127
3. 書名 平成30年版学習指導要領改訂のポイント 高等学校地理歴史公民	

1. 著者名 小山虎（編）・広瀬悠三ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 354
3. 書名 信頼を考える リヴァイアサンから人工知能まで	

1. 著者名 鈴木晶子・山名淳・駒込武(編)・広瀬悠三ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 338
3. 書名 教職教養講座 第2巻 教育思想・教育史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大西 宏治 (OHNISHI Koji) (10324443)	富山大学・学術研究部人文科学系・教授 (13201)	
研究分担者	金 ヒョン辰 (KIM Hyunjin) (10591860)	北海道教育大学・教育学部・准教授 (10102)	
研究分担者	井田 仁康 (IDA Yoshiyasu) (20203086)	筑波大学・人間系・教授 (12102)	
研究分担者	伊藤 直之 (ITO Naoyuki) (20390453)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授 (16102)	
研究分担者	茨木 智志 (IBARAKI Satoshi) (30324023)	上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授 (13103)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	永田 成文 (NAGATA Shigefumi) (40378279)	三重大学・教育学部・教授 (14101)	
研究分担者	広瀬 悠三 (HIROSE Yuzo) (50739852)	京都大学・教育学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	中平 一義 (NAKADAIRA Kazuyoshi) (50758597)	上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授 (13103)	
研究分担者	山本 隆太 (YAMAMOTO Ryuta) (80608836)	静岡大学・教職センター・特任准教授 (13801)	
研究分担者	秋本 弘章 (AKIMOTO Hiroaki) (90327015)	獨協大学・経済学部・教授 (32406)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 日本地理学会2021年春季学術大会シンポジウム2	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 日本社会科教育学会第68回全国研究大会（課題研究5）	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 日本地理教育学会第67回大会特別講演会	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 日本社会科教育学会第2回国際交流セミナー	開催年 2017年～2017年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	イースト・アングリア大学			
アイルランド	メイヌース大学			
英国	ノッティンガム大学			
トルコ	エズキシェル大学			
英国	ノッティンガム大学			